

榎えのき

令和7年5月13日発行 校長 久保田 勲

子ども主体の学び—子どもたちの学び意欲を高めたい—

子どもたちの誰もが安心して過ごせる楽しい学校を、教職員で力を合わせてつくっていききたい。そんな思いを、前号でお伝えしましたが、今号では、具体的に、子どもたちがわかる喜びを感じ、学ぶことが楽しいと学習意欲を高めるときは、どんなときか、どうしたらよいか、考えを綴ってみたいと思います。

子どもたちの学習意欲を高めるためには、子どもたちに「驚き」をもたせてあげることが大切だと考えます。

「驚き」をもたせるにはどうしたらいいか、右に示すように4つの方法があると言われています。

驚いた子どもたちは、「あれ?」「どうしてかな?」といった疑問をもちます。「あれ?」と思うのは、今までの自分の経験では説明できないからだと思います。そこで、子どもたちは、「知りたい」「調べてみたい」「やりたい」「追究したい」という気持ちになり、意欲的な学習（問題解決的な学習）をはじめるとはならないでしょうか。自分で見つけた「?」を追いかけると、子どもたちはぐんぐんと進んでいきます。学ぶ楽しさを実感する主体的な学びとは、そんな姿から生まれてくるのではないのでしょうか。

- 意表をつく。
- 固定観念をひっくり返す。
- 新鮮な出会いをさせる。
- 見直しの必要性に気付かせる。

『子どもの見る目を育てる』国土社

家庭においても…

「驚き」は些細な日常の中にたくさんあります。例えば、親子で買い物に行き、「牛肉でも、何でこんなに値段が違うのかな?」「サービスカウンターって何だろう?」…。また、普段の会話の中で、「車を『もちにいく』って方言なの?」「校長先生が使う『まるかって』と同じかな?」など。



子どもたちのつぶやきや疑問には、学びの芽がたくさん詰まっています。学びの芽を伸ばしていけるように、家庭でも、「そうだね、どうしてだろうね」「いいことに気が付いたね～!」と問い返しながら、見つけた疑問を、子どもを動かす力に変えていく、そんな力添えをしていたいただければ願っています。

学校 HP の紹介

日々の教育活動や学校情報を発信していきます。学校を知る手段としチェックしてください。

